

第4回港湾行政マネジメントに関する研究会議事概要

主要意見

- 港湾にはさまざまな側面や価値があり、国と港湾管理者が連携するだけではマネジメントでできることも限定されてしまう。そのため、港湾ユーザーや関係機関なども含めた関係者が連携し、関係主体の集まりであるポートコミュニティ（港湾・地域共同体）で取り組む次のステップのマネジメントを踏まえつつ、国のマネジメントを進めていくべきである。
- ポートコミュニティで取り組むマネジメントでは責任の所在が不明確になる等の懸念もあるし、指定管理者制度など公共施設の管理に関わる行政の関わりについても変化があり、行政とマネジメントの境界領域などについても整理をしていくとよいのではないかと。
- 港湾行政マネジメントと港湾行政をどう捉えるかについては、大変難しい問題であり、港湾行政組織などのあり方については別次元の話として、当面は切り離して考えてもよいのではないかと。
- ポートコミュニティによるマネジメントを実現するためには、国や関係行政機関、港湾管理者、港湾ユーザー、地域住民などのそれぞれの責任の所在、リスクのシェアリングなど、マネジメントのルールが育つ必要があり、最初は国が中心になりマネジメントをリードしていく必要があるのではないかと。
- 利用者の満足度調査については、港湾ユーザーと地域住民とで大きくその評価が違うことも想定されるが、その評価の違いをいかに港湾行政に結びつけるかというのが、まさにこのマネジメントの成果になるのではないかと。
- 毎年のPlan-Do-Seeサイクルの中で、成果が出てくるタイミングと翌年度の目標をセットするタイミングが前後する懸念があるため、次年度からの試行の中で、指標によってデータの集計時期等も検討する必要があるのではないかと。また、評価段階を考えると、港湾やターミナル別、機能別などで評価することも、今後検討していく必要があるのではないかと。
- マネジメントの背景や目的だけでなく、マネジメントによりどのような行政に変わるのかという点についても、「成果重視の行政」や「効率的な行政」をよりわかりやすく具体的に記述し整理するとよいのではないかと。
- 次年度以降、継続的にトライ＆エラーを重ねながら、改善につなげていくことが必要である。今後も継続的に取り組むべき課題があることを認識しつつ、次年度からの試行により、まずは、港湾行政の改善に向けた第一歩を踏み出すべきではないかと。